したいです。

（推敲後の文）

私が目標とするのは、聞く人に正しく伝わるように発表□□□です。

三

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（26点）

乗り物のうちで、歩くことにもっとも近いのは、著者の経験ではカナディアン・カヌーに思われる。もちろん、※ホワイトウォーターに挑むスポーツとしてのカヤッキングではない。河と湖をカナディアン・カヌーで進み、森のなかではそれを担いで踏破する移動だ。①カヌーは深い思索に誘われる。哲学するためにこの乗り物を作ったのではないかと思えるほどだ。しかしそれは歩いているときや※トレッキングしているときとは、思考の働き方がかなり異なる。カヌーを漕いでいるときの方が、より深く、より多角的に、その場所に包まれる。自分は環境の一部分となり、その一部分全体が移動する。自分は水となり、その水が海に向かう。歩いているときには、自分の身体は環境に包まれつつも、それから身を引き剝がし、足を宙に浮かしている。カヌーでの思考は、歩行のときよりも※形而上学的になる。

ヨットと乗馬は、圧倒的に素晴らしい経験であるが、歩くこととは似ていない。乗馬には、馬という相棒がいる。相棒と自然について対話しながら進んでいく。だが、この相棒と私とは志向性がかなり異なり、ときに初心者には難解な言葉を容赦なく浴びせてくる。馬の歩行のリズムは、人間の歩行のリズムと異なるが、非常に快適であり、快楽をもたらす。※ケンタウロスは、ひとつの人間の身体的理想なのかもしれない。

ヨットは、散歩よりもはるかに危険な行為であり、個体の生命をつねに自覚させられる。※セイリングでは、カヌーと同じく、自然に完全に包まれ、風と波、海の一部と化す。しかしカヌーが身体との一体感が強いのに比較すると、ボートは依然として乗り物であり、クルーもいる。風と波に従いながら、それらを最善に利用するには、知恵とチームワークが必要である。セイリングでは、多忙な労働と瞑想が交互にやってくる。それは風と波のリズムの反映である。

こうして、カヌーやヨット、乗馬では、②自然のもつ意味が、それぞれに散歩やトレッキングとは大きく異なっている。

歩くことは独特の経験である。しかし足もある意味で乗り物である。乗り物はさまざまな用途に使える。ここで私が論じているのは、散歩としての、トレッキングとしての歩きである。それは歩くこと自体に注意を向け、歩くことで展開する風景に侵入される経験である。リズミカルに、しかし道の細かい変化を足の裏で拾い上げながら、ほんの少しスピードを変えて、周りの空気を静かに吸って吐き、自分が押しのける風のなかで自分の体を感じるのである。歩くことそのものが、生きることであったのではないか。

しかし、③散歩やトレッキングは、ただ足を前後することではない。自宅の小さな庭をぐるぐる回るのでは楽しめない。外に出て、いつもの道と寄り道を取り混ぜながら、あるいは旅行先の見知らぬ場所を歩くことは、大げさに言えば、自分を異なった存在にすることである。散歩もトレッキングも、自分の歩みと連動する風景、息と大気の循環、束縛がなく自由に動かせる空間と身体、あらゆるものをしっかり観察できるゆったりしたスピード、少しずつであるが蓄積される疲労と休憩の場所、こうした身体と環境との即応を感じ取るものである。もっとも重要なことは何か特定の目的がないことである。しかし、私たちは歩くことで何かとの出会いを求めている。しかしそれが何かは分かっていない。いつ出会えるかも分からない。そのような特別のものに出会える場所を見つけようとして

N50245_埼玉県公立高校_学力検査_国語.indd 8 21.4.16 4:09:37 PM

いるのだ。いや、見つけるというのは適切な言葉ではない。そうした人間の能動的な選択によって現れるのではなく、その何かが、その場所で待っていてくれるという表現を使ったほうがいい。

哲学と散歩の結びつきはかなり本質的である。多くの哲学者たちが散歩を好み、散歩しながら思索し、友人と議論をした。アリストテレスは歩きながら議論し、その弟子たちは※逍遥学派と呼ばれたことは知られている。東洋思想でも、散歩と思索はひとつのものであった。近代になっても、散歩者を数えればキリがない。

なぜ、哲学と散歩はここまで強い結び付きがあるのだろうか。人類学的な説明をすれば、二足歩行により、手が自由になり、口に鋭い歯と重い顎が必要なくなった。話して考える準備は、足がもたらしてくれたのだ。しかしより本質的に言えば、歩くことと考えることが同じ行為だからではないだろうか。

散歩は目的地をもっているわけではない。かりに目的地がある散歩であっても、そこに到達する過程の方に意味がある。散歩は、何であるか分からないものとの出会いを求めて歩く。自分が求めているものが何かわからず、何に出会うかも分からないが、出会ったときにはそれを必然と感じるような何かを探して歩いている。そのさがしものは、記号化され、誰からも分かるような道端に置かれているのではない。微かな徴だけを頼りに、草深い※トレイルを歩いて見出すのだ。さがしものを手に入れることに目的があるのではない。

④さがしものが自分を変化させることが大切である。それは自分にしか見つけられない場所を訪れることである。

散歩において見つけた、しばし留まるべき場所、これまでの自分とは異なった視野を与えてくれる丘の頂上、緑の生き物の内臓のような森、不健康なほどコバルト色の空が宇宙に届いている高原、風の足跡を残してうねる砂丘、永遠にクロールしたくなるようなサンゴ礁の海辺。これらの場所に到達して私は変身する。そこに永らく座っていたくなるだろう。しかし自分が散歩の途中であったことを思い出し、私たちは再び歩き出す。どこでもない目的地を探して。

⑤こうした散歩の歩き方は、考えることに非常に似ていることにお気づきだろう。思考には、問題解決のためのありとあらゆる行動が含まれている。それは、問いに始まり、どこにたどり着くかおぼつかない旅である。知的な探求は、踏みならされた道路を進むことではありえない。

歩くこと、話すこと、考えることには、共通の構造がある。それは、※ドロワによれば、「崩壊しはじめ」、「持ち直し」、「また始める」という構造である。たしかに、ある方向に移動するという推進と、それを実現するための足と地面との調整の連続で歩行はできている。細かな失敗と修正を繰り返して、私たちは歩むのだし、考えることも話すことも同じような過程で進んでいく。この点にはまったく同意できる。ドロワは、さまざまな哲学者の歩行＝思考の仕方を分析し、それぞれの哲学者の思想の違いは、その歩き方の違いに対応しているという興味深い説を展開している。

（河野哲也 著『人は語り続けるとき、考えていない　対話と思考の哲学』による。一部省略がある。）

（注）※ホワイトウォーター……川の激流。
※トレッキング……山歩き。
※形而上学……物事の根本原理を研究する学問。
※ケンタウロス……ギリシャ神話で上半身は人体、下半身は馬の形の怪物。
※セイリング……水上を帆走すること。
※逍遥……あちこちをぶらぶら歩くこと。
※トレイル……踏み分けた跡。
※ドロワ……ロジェ＝ポル・ドロワ。フランスの哲学者。（一九四九～）

N50245_埼玉県公立高校_学力検査_国語.indd 9　21.4.16 4:09:37 PM

問1　①カヌーは深い思索に誘われる。とありますが、カヌーでの思考の働き方について説明した文として最も適切なものを、次の**ア**～**エ**の中から一つ選び、その記号を書きなさい。（4点）

ア　カヌーでは、歩くことよりも、より深く、より多角的に、環境の一部分となって移動しているように感じられる。

イ　カヌーでは、自分の足で歩くときと同じくらい深く、多角的に、その場所に包まれているように感じられる。

ウ　カヌーでは、水から身を引き剝がし、足を宙に浮かせることで、その場所に包まれているように感じられる。

エ　カヌーでは、その姿勢や足の運びが歩くことと似ており、環境の一部分となって移動しているように感じられる。

問2　②自然のもつ意味が、それぞれに散歩やトレッキングとは大きく異なっている。とありますが、筆者の考える乗馬やセイリングにおける自然との関わりについて説明した文として適切なものを、次の**ア**～**オ**の中から**二つ**選び、その記号を書きなさい。（4点）

ア　乗馬では、馬を相棒にして自然との対話を楽しむが、初心者は、ときに難解な言葉を容赦なく馬に浴びせてしまうことがある。

イ　乗馬では、相棒となる馬と自然について対話をしながら進むが、その馬の歩行のリズムは、非常に快適であり、快楽をもたらすものである。

ウ　乗馬は、相棒である馬と自然について対話をしながら進めるが、誰にでも快適さをもたらすものであり、素晴らしい経験を得ることができる。

エ　セイリングは、個体の生命を自覚させられる危険な行為である反面、自然に完全に包まれるために、多忙な労働を絶え間なく続ける必要がある。

オ　セイリングでは、自然に包みこまれ、風と波、海の一部と化すことができるが、風と波のリズムを反映し、多忙な労働と瞑想が交互にやってくる。

問3　③散歩やトレッキングは、ただ足を前後することではない。とありますが、筆者の述べる散歩やトレッキングとは、何を感じ取り、どのようにすることですか。次の空欄にあてはまる内容を、二十字以上、三十字以内で書きなさい。（6点）

特定の目的をもたずに、何かとの出会いを求めて歩きながら、［　　］こと。

問4　④さがしものが自分を変化させる　とありますが、筆者の考えるさがしものと同じ内容を表している部分を、本文中の同じ段落（形式段落）から二十二字で探し、最初の五字を書き抜きなさい。（5点）

問5　⑤こうした散歩の歩き方は、考えることに非常に似ているとありますが、筆者の述べる散歩の歩き方は、どのような点で考えることに似ているのですか。次の空欄にあてはまる内容を、**道路**、**失敗**の二つの言葉を使って、四十字以上、五十字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。（7点）

散歩の歩き方は、どこにたどり着くかおぼつかないが、［　　］という点で、考えることに似ている。

N50245_埼玉県公立高校_学力検査_国語.indd 10　21.4.16 4:09:37 PM